

滝川市長 前田 康吉 様

滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書

平成31年 月 日

滝川市環境市民委員会

1 趣旨

この評価報告書及び提言書は、滝川市環境基本条例 29 条に基づき、滝川市環境市民委員会（以下「委員会」という。）として調整した評価及び提言などについて、滝川市長に対して年に 1 度、提出するものである。

なお、ここで評価対象とするのは前年度（平成 29 年度）の取組に対する評価を含め、計画期間内での施策などの進捗状況についてである。

2 平成 29 年までの取組などに関する評価について

平成 29 年度までの取組に係る評価については、別添「評価シート」のとおりとし、特に次の点について高く評価する。

① エコライフたきかわ（通称：エコたき）の推進について

「エコたき」の市民普及に向けた年間計画を立て、「エコ部！」に所属する高校生が地球温暖化並びにエネルギーをテーマにした環境教育を実施し、240 名の子ども達に学ぶ機会の提供、保育所園児から大人まで幅広い年代層を対象に、市立図書館や空知自動車学校と連携して、啓発ポスター展示などを行ったほか、公共交通機関への啓発ステッカー掲出、新聞記事広告の掲載など、「エコたき」の取組が多く市民の目に触れる機会を提供したことを評価する。

② 3R の推進について

不用品データバンクの実施、空知自動車学校と連携したフリーマーケットの実施に加え、リサイクル率の増加、ごみ排出量の削減に向けてごみ分別一覧表（カラー・A3 サイズ）を全世帯に配布し、市民のリサイクル並びに分別への意識付けを行ったことを評価する。

③ 地球温暖化の推進について

昨年度に引き続き、高校生や短大生に環境保全について考える機会を提供したことを評価する。

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を活用し、保育園児から大人までを対象とした幅広い世代へ節電や省エネルギーに関する普及・啓発、様々な主体と連携した取組を行ったことを評価する。

また、町内会の街路灯やホームページを活用した市民への定期的な情報発信、籾殻の燃焼実験を実施したほか、エネルギーパークの本格始動により、市民へ再生可能エネルギーに関わる情報提供を行ったことを評価する。

④ 環境学習リーダー養成講座について

高校生や短大生を中心とした「環境学習リーダー」の継続的な養成のほか、新たな試みとして、滝川高校科学部・クッキング部、市立図書館、滝川市保健センター、市内農家と連携した環境教室を行うなど、子ども達が「環境問題」を身近に感じ、興味を持つきっかけ作りを積極的に行ったことを評価する。

環境市民大会は滝川高校と連携し、講演だけではなく環境保全に取り組む高校生による活動報告等も同時に行うなど、規模や内容を大幅に進展させ、幅広い年代の市民が環境について考える機会を提供したことを評価する。

3 今後の取組に向けた提言について

今後に向けたあるべき姿や方向性、検討を要望する事項については、次の点を掲示する。

① 目標1：「生活環境」の推進について

◆今後も継続して「エコたき」の普及促進を行うことが必要。また、環境講演会や家族で参加できる環境イベントなどを実施し、環境に興味・関心のある市民を増やしていくことで、家庭、地域、事業所、行政が一体となって市民運動「エコたき」に取り組む基盤づくりに努めていくことを要望する。

② 目標2：「地球環境」の推進について

◆二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金終了後も、継続して地球温暖化防止活動に取り組めるように、教育機関や事業所との協力体制の強化を進めて行くこと、また、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの利用推進についても、引き続き事業所や関係所管と連携し、周知や的確な情報の提供に努めて行くことを要望する。

③ 目標3：「自然環境・農業」の推進について

◆自然体験活動の興味関心を高め参加者数の増加に向け、引き続き関係所管等と連携し、広報、ホームページ、Facebook等を活用した周知の継続実施を要望する。

④ 目標4：「環境コミュニティ」の推進について

◆環境学習リーダーの育成に向け、エコネット登録団体との連携強化を要望する。

◆より幅広い世代への環境教育の普及を期待するほか、市民を中心とする指導者の育成、これまで行っていなかった中学校連携等も視野に入れ、今後の学習リーダー育成の発展につながる取組方法の検討を進めて行くことを要望する。

委員会としては、今後、滝川市が環境施策を展開していく中で、以上の各事項について十分に留意し取進めるよう要望し、報告及び提言する。

平成31年 月 日

滝川市環境市民委員会 委員長 石 川 美 雪